

絵本の魅力を紹介 親子で楽しむ絵本の世界

1月23日、ゆめトピア長船で人気絵本作家の長谷川義史氏を迎えて「親子で楽しむ絵本の世界」を開催しました。

絵本ライブでは、絵を描きながら物語を話したり、「いいからいいから」など自身の作品をユーモアたっぷりに朗読したりして、会場を沸かせました。また、岡山の名物を織り込んだ歌を即興で作ってみんなで合唱。参加者からは「絵本そのままのステージ、本当におもしろかったです」などの感想が寄せられました。午後からは装飾をつけてお面を作る袋お面づくりも行われ、大人も子どもも長谷川ワールドに浸った一日となりました。



爆笑の渦に包まれた会場（左下）／次から次に描かれる絵にみんな興味津々（右上）

たくさん食べたよ 邑久町漁協かきまつり



あつあつの焼きガキ、おいしいね！（左下）／虫明のカキは今年も大人気！（右上）

1月30日、邑久町漁業協同組合主催の邑久町漁協かきまつりが同組合市場（邑久町虫明）で開かれ、新鮮な冬の味覚を求めて県内外からたくさんの方が訪れました。

かき供養が行われた後、横山満朋組合長がまつりの開会を宣言。市価の3～4割安という新鮮なカキを求めて早速長い列ができました。

殻付きカキのバケツつめ放題には、家族連れなどが挑戦し、中にはバケツの高さの倍ほども詰め込む人も。このほかにも、カキの味噌汁や焼きガキの無料試食、フライ、つくだ煮などカキを使った料理の販売なども人気を集めていました。

演劇で人権学習 人権啓発ミュージカル「紅中トキドキ交響曲」

1月30日、ゆめトピア長船で岡山市を拠点に活動する手づくりミュージカル「ドラネコ座」が人権啓発ミュージカル「^{ベにちゆう}紅中トキドキ交響曲^{シンフォニー}」の公演を行いました。

廃校になった紅屋中学校の音楽室を舞台に、元音楽教師が残した古い手紙と書きかけの楽譜をきっかけとして再び始まった交流を描いています。

人間関係の希薄化や高齢化などの問題を取り上げ、人の心が通い合って生きることの大切さを問いかける内容となっていて、約150人の観客は、舞台上で繰り広げられる歌と演技に時間を忘れて見入っていました。



熱演に魅せられた「紅中トキドキ交響曲」

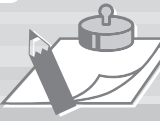
cover photograph



2月20日に、瀬戸内市体育協会主催の瀬戸内市健康マラソンが邑久スポーツ公園で開催され、市民ランナー約800人が参加しました。市民の健康づくりを目的に行われたもので、今年で6回目となります。パフォーマンス部門には、JA岡山から牛窓の野菜をPRする地産地消ヒーローの白キャマンも登場。また温かい「せとうちシーフードハッスル鍋」も振る舞われました。

今月の
表紙

まちの
話題



問 政策調整課：0869-22-1113

障害のある人の自立をめざして 瀬戸内市福祉フェア2011



①バリアフリーの重要性を確認した高齢者体験／②セットちゃんも登場／③手話や要約筆記も行われた副島氏の講演／④バイキングコーナーは大にぎわい



飛ぶように売れたせとうち旭川荘のパン

1月15日、ゆめトピア長船で、瀬戸内市自立支援協議会の主催により瀬戸内市福祉フェア2011が開催されました。

障害のある人やその家族が将来にわたり安心して暮らしていける地域社会づくりをテーマに、映画や講演、障害体験、授産品の販売などが行われました。

広島県尾道市の（社）若葉総合施設長の副島宏克氏は、「親亡き後の生活を考える」と題して講演し、小規模作業所を設立したときの苦労などを紹介しながら「障害があるままで地域生活を送るには、まず障害のある人が自立することが必要。そのためには市民と行政が協働で、障害の有無に関係なく安心して暮らせる地域づくりを進めなければならない」と話していました。

特殊な器具を装着して階段の上り下りなどを行う高齢者体験、幻聴や注意欠陥多動性障害（ADHD）といったさまざまな障害を体験できるのコーナーや市内の福祉施設によるパンや野菜などの販売も行われ、障害のある人への理解を深めていました。